2016年8月28日

福音書からのメッセージ

イエスは、招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らにたとえを話された。
（ルカによる福音書14章7節）

イエス様は安息日にファリサイ派のある議員の家の食事に呼ばれました。当時のユダヤの食事は社会的な儀礼としての側面が強く、どこで、だれと食事をするのかということがとても大切にされていました。さらにどの席につくとよいのかということも大事です。この食事に様子で、その人の社会的なステータスがわかりました。

だから人々が上席を好むのは、自分がそれだけの地位にあると考えるからでした。つまり自分はその場所にふさわしい者だと考えたのです。上席から末席を見下ろして、自分のおかれた場所に満足する。それが食事の風景だったのですね。その様子をイエス様は見ておられました。そして神の国のたとえを話されます。

イエス様は言われます。「婚宴に招待されたら」と。婚宴とはまさに、神の国の宴会を意味します。もしわたしたちがそのような婚宴に招待されたら、どうするでしょうか。そもそもわたしたちは、神の国の宴に招かれるにふさわしい者なのでしょうか。ユダヤの食卓でも、わたしたちの食事会でも、招待されるのは、それなりの理由がある人たちです。友人であったり、兄弟、親戚であったり。あるいは利害関係があったり。ではわたしたちと神さまとは、そのような関係にあったでしょうか。

わたしたちのうち、誰一人として、自分だけの力で神の国の食卓に行くことのできる人などいません。神さまはわたしたちを、一方的に呼ばれました。わたしたちが何か素晴らしいことをしたからでも、わたしたちに神の国を受け継ぐ権利があるからでも、なんでもありません。ただ、神さまは、わたしたちを呼ばれた。わたしたちに神の国の宴会の招待状をくださった。神さまの大きなお恵みのうちに、わたしたちはその食卓へと招かれているのです。

わたしたちは、神の国の食卓では場違いな者です。顔すら上げることもできない。わたしたちは神さまから一方的に、圧倒的な恵みを与えられました。自分の本当の姿と神さまの愛とを考えたときに、末席にすらいることができない。それがわたしたちなのではないでしょうか。

その思いの中、末席ですくんでしまっているわたしたちに、招いた人は言ってくれます。「さあ、もっと上席にすすんでください」。「さあ」と訳されている語は「友よ」という言葉です。自分はこの場にふさわしくないという思いの中、じっと固まっているわたしたちの元に来て、「友よ」と声をかけてくださる。神さまはこんなわたしたちを招いてくださるだけではありません。友として近くに呼び寄せてくださいます。それが神さまの愛なのです。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/